


I-8.研究者の国際交流に関する調査(2020年度対象)

Survey on international mobility of researchers in Japan

 キーワード	研究者の国際的移動、国際交流、科学技術国際協力
Key Word	international mobility of researchers, international exchanges, international collaboration in science and technology

1 調査の目的

我が国が科学・技術を発展させ、イノベーションを創出していくためには、我が国が国際的な人材・研究ネットワークの一角を占め、海外から研究者を惹きつけるとともに、国際的に活躍できる人材を輩出していくことが重要である。

国際研究交流状況調査は我が国の科学技術国際活動の方向性を検討するための基礎資料を得るため毎年実施されてきている。本調査は2020年度における研究者の派遣・受入れ状況及び関連するデータの収集分析を行った。

2 調査研究成果概要

我が国の全ての国公私立大学、大学共同利用機関法人、国公私立高等専門学校と、研究開発を行う独立行政法人、国立試験研究機関における2020年度の海外派遣・受入れ研究者数を調査し、研究者の国際流動の状況について集計・分析した。調査対象機関は以下の916機関である。

- 1) 大学等：計862機関（国立大学法人(86法人)、大学共同利用機関法人(4法人)、国公私立高等専門学校(57校)、公立大学(94校)、私立大学(621校)
- 2) 独法等：計54機関（国立研究開発法人(27法人)、独立行政法人（国立研究開発法人以外）(11法人)、国立試験研究機関(16機関)

有効回答が得られた機関数は大学等が814機関で回収率94.4%、独法等が53機関で回収率98.1%だった。合計すると867機関で回収率94.7%であった。

2020年度の研究者の派遣・受入れは、新型コロナウイルス感染症の影響で、大きく減少した。

- 短期(30日以内)の派遣研究者数は前年度の154,734人から312人に大きく減少(99.8%の減少)。
- 中・長期(1か月以上)の派遣研究者数は前年度の4,178人から1,017人に大きく減少(約76%の減少)。
- 短期の受入れ研究者数は前年度の21,948人から157人に大きく減少(99.3%の減少)。
- 中・長期の受入れ研究者数は、前年度の13,280人から9,340人に減少(約30%の減少)。

また、大学、国立研究開発法人の国際研究交流担当部門等にヒアリング調査を実施した(対象機関：岡山大学、同志社大学、高エネルギー加速器研究機構)。国際研究交流の現状や課題とともに、特に新型コロナウイルス感染症への対応や影響について質問した。

本調査は、令和3年度の文部科学省委託調査(令和3年度科学技術試験研究委託事業「研究者の交流に関する調査」)として行われたものである。

報告書は、<http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kokusai/kouryu/>においてダウンロード可能である。(令和4年9月27日確認)